



WORLD BOOK  
ワールド・ムック868

## monoSTYLE ジテンシャ No.4

資料提供:英国ラレーインターナショナル  
表紙デザイン:小柳英隆  
DTP:ペイス

編集部より商品取扱説明書にしたがって、正しい使い方をしてください。掲載価格は税込みの価格です。実勢価格は編集部調べの市場価格です。

写真/モノマガ男

## Contents.1

### 【総力特集】

## 16 街×自転車 SLOW RIDING

歩くのでも見つけられない街のすき間と出会うから自転車が楽しい。ちょっと風を感じたい時にはスピードを出せて、キャリアには出先で見つけたものを放り込む。他の人とは違うカラーを選んで、ツーリングバイクを最強のママチャリにレストアしてみたり……。街を走るスポーツバイクに、生活を楽しむ術が詰まっている。

- 22 スロウな街乗りにしてくれ/考えるヒント1 鳴木屋輪店
- 24 TOKYO SLOW/東京を走るからトーキョーバイク

## 26 700C×30overの選択

BRUNO/700C TOUR Bianchi/LUPO Ordina/SBcb Cannondale/QUICK1 GIANT/SEEK R3 LOUISGARNEAU/LGS-CX3 SCOTT/SUB10 KONA/JAKE MASI/Speciale Chixed

- 34 スロウな街乗りにしてくれ/考えるヒント2 F.I.G BIKE
- 42 スロウな街乗りにしてくれ/考えるヒント3 I.D.E. store
- 48 無駄なく収納せよ「狭小カバン」×「ジテンシャ」のススメ
- 51 街で見つけたジテンシャな人々「モノ街ックStyle」

## 52 現役MTBライダーが実車インプレッション

「29(トゥーナイナー)」という第三の波到来。

SPECIALIZED/Hardrock Sport Disc29 GIANT/TALON 29ER2 TREK GARY FISHER Collection/Marlin 29er CENTURION/BACKFIRE ULTIMATE 3.29 ROCKY MOUNTAIN/SOUL29 E.B.S./TRIP29 Cannondale/TRAIL SL29'ER4

- 65 貴方のジテンシャライフを豊かにする(かもしれない)「珠玉のデジグッズBESTランキング」
- 68 オシャレ電動アシスト自転車で街中をぶらり旅「電ポタワールド」  
Bike R&D/YS-33 Hybrid YAMAHA/PAS CITY-Cリチウム PANASONIC/Off Time BRIDGESTONE/RealStreamDX GIANT/CRS HB



写真/モノマガ男

WORLD MOOK  
ワールドムック868

## monoSTYLE ジテンシャ No.4

© WORLD PHOTO PRESS 2011  
表紙資料提供:新栄工業  
表紙デザイン:小柳英隆  
DTP:ベイス

編集部より:商品は取扱説明書にしたがって正しい  
使い方をしてください。掲載価格は消費税込みの総  
額表示です。実勢価格は編集部調べの市場価格です。

## Contents.2

### 【特別企画】

## 80 ミニベロに乗って見える風景は、昨日とは違う ミニベロ・クルージン!

ミニベロ人気は衰えを知らない。なぜならその乗り物は、目を三角にするでもなく、  
気取るでもない普通に街をクルーズするほくちちに最適だから。  
初めての本格自転車にイチオシのミニベロのおいしいいろいろ、考えました。  
掲載ブランド/ジャイアント/ダホン/KHS/マンハッタンバイク/クリーンスピード/ル  
イガノ/ブルーノ/ピアンキ/ジオス/マジィ/オリバイク/ラレー/コーダーブルーム/ボ  
ネノワール/ピリオン/ブリヂストン/ブルックス/アイム

期間限定受注でお届け!

## 6 コラボグッズプロジェクト今回は2連発

4月16日(土)~5月30日(月)まで

期間限定WEB受注いたします!

- ① スピングルムーブ/自転車シューズ
- ② MAKKAMON/フレーム&ボディバッグ迷彩レザーズスペシャル

11 ジテンシャイズム01~03

## 12 巻頭特別掲載/夏目漱石「自転車日記」

78 連載「自転車コグ宝」

105 連載「働くジテンシャ」

106 読者プレゼント

109 WHOSE BICYCLE?



# 男は黙って オールブラックか

レザー  
&  
リフレクター  
ベルト2本付  
ヒロイックに  
1万9950円

SPINGLE X  
mono  
ジテン  
コラボ・スニ

MOVE  
STYLE  
シャ  
ーカー

# スニーカー界未踏!?!の ペパーミントグリーンか



左・「ヘルク口部分とカカト部分をリフレクターにして、夜間の視認性を上げている」(田上さん)  
中・外側の色とバランスをとるため、内側をシルバーにするのがいい、と田上さんからアドバイス。仰るとおり、とんでもなくイイ!  
右・同色のレザーとリフレクターバンド付。



ともに左右外側、下3つのシューホールには裏側がDに加工した金具を付けた。さりげないインパッドあり。

SS(23.5cm)  
から  
LL(27.5cm)まで  
1cm刻みで  
5サイズ展開

4月16日(土)~5月30日(月)  
期間限定受注生産

弊誌恒例、大人御礼コラボ企画。今回、念願がなつてスニーカー!

ご協力頂いたのは広島から世界に発信する「スピングルムーブ」。今や数少ない日本製バルカナイズドシューズを手掛けるフアクトリーブランドだ。同社のシュールームに伺った際、偶然目にした世に出ていないモデルをベースに、自転車に乗る時迷わず選べる、ありそうでなかった「スニーカーを作れないか」とお願いしてしまったわけだ。

膨大なカラーサンプルのなかで、いきなり目にとまった絶妙なペパーミントグリーン。それ以降何をしようも、この色を超える心が動かされることなく決定。対応してくれたスピングルムーブ!

弊誌恒例、大人御礼コラボ企画。今回、念願がなつてスニーカー!

ご協力頂いたのは広島から世界に発信する「スピングルムーブ」。今や数少ない日本製バルカナイズドシューズを手掛けるフアクトリーブランドだ。同社のシュールームに伺った際、偶然目にした世に出ていないモデルをベースに、自転車に乗る時迷わず選べる、ありそうでなかった「スニーカーを作れないか」とお願いしてしまったわけだ。

膨大なカラーサンプルのなかで、いきなり目にとまった絶妙なペパーミントグリーン。それ以降何をしようも、この色を超える心が動かされることなく決定。対応してくれたスピングルムーブ!

弊誌恒例、大人御礼コラボ企画。今回、念願がなつてスニーカー!

ご協力頂いたのは広島から世界に発信する「スピングルムーブ」。今や数少ない日本製バルカナイズドシューズを手掛けるフアクトリーブランドだ。同社のシュールームに伺った際、偶然目にした世に出ていないモデルをベースに、自転車に乗る時迷わず選べる、ありそうでなかった「スニーカーを作れないか」とお願いしてしまったわけだ。

膨大なカラーサンプルのなかで、いきなり目にとまった絶妙なペパーミントグリーン。それ以降何をしようも、この色を超える心が動かされることなく決定。対応してくれたスピングルムーブ!

クラシックなスポーツシューズを彷彿させる現代的なフォルムのハイカットが自転車に向くと、履き心地が直感。バンド装着のまとも具含も品が良いではないか!



左上・金具遊びも興味、オールブラックのはうの金具にはいぶしを入れた。漆く、シューズのグレードを上げるバランス。シューホールの裏だって結構悩んでます。左下・職人がひとつひとつ手作業で接着硬化させる。巻き上げのアウトソールがブランドを象徴する。黒のアップパーに黒のアウトソールの合わせは、なぜかスピングルムーブもやってこなかったという。もちろんmade in Japanの封印あり。右・オールブラックモデルのベルトは黒(レザー)とペパーミントグリーン(リフレクター)の組み合わせ。



スーツにだって合わせられるから、通勤にも活用したいリフレクターのヘルク口部分との絶妙な黒色合いが絶妙なバランスになりました。

お申し込みと詳細は  
モノマガジン公式通販サイト  
[www.monoshop.co.jp](http://www.monoshop.co.jp)  
ディテールは  
<http://de-tails.jp>まで



マッカモンはサイクルバッグの  
新ブランドです。  
今回のコラボカバンも  
気合充分。ぜひお手元に!  
(イケテイ「マッカモン」担当・田口さん)



信頼のあかし  
「メイド・イン・ジャパン」  
なのだ!

この独創性、  
完成度で、ナント  
**1万2600円**

の超特価だから  
今すぐクリック!



この商品の詳細とお申し込みは、  
モノマガジン公式通販サイト「モノ・ショップ」

[www.monoshop.co.jp](http://www.monoshop.co.jp)

または、モノ大好きサイト「ディテールズ」

<http://de-tails.jp>

まで、お待ちしております!

この製品に関するお問い合わせは、モノ・ショップ ☎03-5385-5801まで。

自転車の本なんだから、自転車好きが喜びアイテムを作りたい。そう思ってこれまでコラボ製品を作り、幸いにも好評を戴いたわけだが、今回はどうしようかな? 「そうだ」と閃き、新星サイクルバッグブランド「マッカモン」の門を叩くことにした。ドンドン。迎えてくれたのはマッカモン企画担当のイケテイの田口さん。もちろんご自身も自転車好きで、以前からサイクルバッグの企画をあたためていたのだそう。 「メッセンジャーバッグはすでにたくさんあります。靴メーカーであるイケテイの利点を活かすなら、今までになかったバッグを作るべきだと考えました」と田口さん。そのひとつが今回コラボした「ノル」なのだ。 ノルはボディバッグでありフレームバッグにもなる2WAYで、フレームへの取り付けもフラップを巻いて前ボタンと横バックルを留めるだけと極めてシンプル。コラボモデルでは迷彩柄のオイルドレザーを前面フラップにファイヤーレッド、内装はオレンジのボンディングナイロンとして新鮮な驚きを演出した。計6つの小分けポケットも使い勝手は100点満点だと自負する。 装着車両はトップチューブが水平のフレームならば問題ないが、スロープしていたり、トップとダウンチューブが接近している場合は装着できない。カバンのサイズ表記を参考に確認してくれ!

モノ・スタイル ジテンシャ  
×  
MAKKAMON 特別コラボレーション  
「ノル/フレーム・ボディバッグ・迷彩レザー-SPECIAL」

4月16日(土)~5月30日(月)まで  
期間限定受注でお作りします!



サイドベルトをシートチューブに固定する。 フラップをチューブに巻きつけてボタンで固定。 バッグからストラップを外し本体に収納する。

フラップは  
大胆な迷彩柄の  
オイルドレザー



裏側 ボディバッグとしても大活躍!

トップチューブに  
カンタン装着!!



本体はPVC  
コーティング  
ヘリンボーン生地

5cm

27cm

18cm



前フラップは  
装着したまま  
モノの出し入れOK  
ユニークな形状の前フラップは、実は装着したまま片方ずつモノの出し入れができるという機能性のデザインなのだ。



フラップを開いても  
スゴいんです!  
本体前面にはサイフや文庫本、筆記具などに最適なスリットポケットを装備。実はかなりの収納力だとわかるかな。



計6ポケットで  
とっても便利  
ジップを開けば内側にはスラリと4つの収納が! スマホやケータイ、シガレット&ライター、そして自転車乗り必須のマルチツールがぴったり。



Bianchi × 青山

# 街 × 自転車

## SLOW RIDING

歩くのでも見つけれない街のすき間と出会えるから、自転車は楽しい。  
風を感じたくなったら、スポーティにスピードを出すことができ、  
キャリアには出先でつけたものを放り込む。  
ツリングバイクを最強のママチャリにカスタムしてみたり……。  
スポーツバイクには、テンポをゆるめて生活を楽しむ術が詰まっている。

写真 坂本政十郎





**SURLY  
LONG Haul Trucker**

買った後にいじり甲斐があるのが「サーリー」。F.I.G.バイクのお客さんでもカスタムをしない人を探すのが難しいほどだ。なかでも「ロング・ホール・トラック」は、溶接や修理が簡単に行なえるクロモリフレーム、広く普及しているので入手しやすい26インチホイール、フレームのよれがなく滑い力を確実に路面に伝えるトリプルバケットチューブがカスタムしやすく、ロングライドに向く。ちなみに予備スポークも装備されているので自転車の修理は定番だ。キャリアをつけたアレンジも比較的難しくなく、クラシカルに、ゴツイイメージにも合いカスタムリアキャリア価格9000円、フロントキャリア価格1万1300円、ハンドルはドロップからブロムナードバーに変更して、約3000円、サドルはBrooks(B-17)で1万円、ホイールは26×15でママチャリより、少しために

鉄板の旅自転車なら、何でも積める  
「ガテン」でクラシカルなキャリアを



**F.I.G BIKE**

東京都渋谷区神宮前2-33-5  
☎03-5413-9051 (1Fパーツ/アクセサリ)  
☎03-5413-9050 (2Fバイク/パーツ)  
営業12時~21時 休水曜日  
www.figbike.com

右はスタッフの方のバイク。リアにキャリアを後付している。スポーティさはまったく失われていない。



スロウな街乗りにしてくれ

考えるヒント **2**

**F.I.G BIKE 編**

「本」 当の自転車の便利さ、楽しさを実感するようになってきた人が多い」と、F.I.G bike 原宿店・福田貴也さんは実感している。自分の用途を明確にした自転車選びが定着してきたのだ。そこで同店がピックアップするのが、キャリア。ブルックスのレザーを採用したキャリアなど高級感のあるものを中心に、幅広くフレームスタイルに対応するキャリアが充実しているのが同店の特長。「スポーツ車を崩していくのが、これからは面白い。そこで、荷物を載せる、運ぶ自転車です。スポーツ車に乗っていたけど、疲れてきた人も増えてきていて、日本は、これまでスポーツ車が自転車のすべてというムードで、よりスポーティ、よりエアロという風潮があった。でも、もっとママチャリのように使えるものが欲しいというのが本音。海外ではMTBにキャリアを付けるのは日常的で、日本でもスポーツ車にキャリアを備えつけてるのは定番化していきそうです」

左ページの「サーリー」にはウッドデッキタイプのキャリアを前後に、従来はドロップのハンドルをブロムナードバーに変更したクラシカルなスタイルを提案してくれた。前後に荷物を載せるのでタイヤは太めに26インチ。このサイズであればブロックタイヤからスリックタイヤ、ママチャリのようなものまでバリエーションが揃い、選択肢が一気に広がるという。太めのタイヤであれば空気量が多く、空気圧を上げなくてもいいので柔らかい乗り味。細いタイヤは空気量が8kgくらいだが、ママチャリ程度の太さだと6kg程度。これであれば段差の衝撃もずいぶん乗りやすくなる。ゴム圧がある上、内側にパンク防止の硬いゴムをかませてあることが多いので、ガラス片を踏んでもパンクがしにくい。しかもカラータイヤが格段に増えてきて、印象がガラッとかわるカスタムも楽しめる。耐久性、柔らかい乗り味、カラーの充実という点で太めタイヤも注目されているという。

**Brooksの上品3点セットで**

デンマークのバイク・カンパニー「VIVO」のクロモリトラックは、従来のピストにはあり得なかった品があり、これを活かして「キャリアと木箱を付けば、いわば高級ママチャリになっていく。お役立ちキットとしては、バッグを幅広く手がけるドイツの「リクセンカール」のアクセサリー。今や後付けキャリアの定番となっている。Brooksのレザーを配したカゴをつけたので、サドル、ハンドルも革にし全体を整えて、ハンドルはこれまたブロムナードバーに。ブロムナードバーは上体を起こして自然体の握り方になるので、ゆったりと無理のない乗車位置に、ゆる乗りカスタムに最適な選択だ。これもドロップハンドルからの変更。もっと太いタイヤをはかせることもできるが、通勤などスピードを出したい時にも出せるよう、あえて細めのタイヤに。そして原型から離れすぎないように、ブルックスのカゴ価格1万9000円、サドル価格1万9000円、グリップ価格1万円、キャリア・アクセサリー価格2415円、ハンドルバー価格3000円



**VIVO TRUCK**



**VIGORE**

これまですべてオーダーメイドの自転車を制作してきた「ビゴレ」は、京都の直営ショップ以外ではF.I.G bikeでしか購入できない。「ビルダー」と言われる方って、いわば職人ですから、アタマの硬い方が多いのですが、片岡さんはレースシーンに意欲があって、ユーモアもあり、おしゃべり。そこに共感して、ウチでもやらせてもらっています。ウチのオリジナルだと、パーツはシルバークラックを半々にしてありますが、あくまでも提案型の自転車なので、ここからお客様がどういう風に進化させられるか？と一緒に楽しみたい。ピンディングではなく、普通のペダルにしたり。すごくゆるく乗るっていうモデルではないけど、ビジネスでスーツ着て乗るのはアリ！ です(福田さん)





# 01 SPECIALIZED Hardrock Sport Disc 29

「これ、街乗り最高のモデルじゃないかな」

## Profile

永田隼也 (ナガタジュンヤ)

1988年生。MTBライダー。16歳でダウンヒル国内シリーズ戦Jシリーズ・エリートクラスに昇格。その後国内外を問わず活躍を続けている。2010年の戦績は4X全日本チャンピオン、ダウンヒル全日本準優勝など。最新情報は公式サイト <http://junya-style.com> をチェックしてみよう。



## Junya's impression

トゥーナイナーがどんな乗り味で、果たして街乗りに適しているのか。今回トゥーナイナーの最新モデル7台を紹介するにあたって、その印象をプロMTBライダーである永田隼也さんに試乗して語ってもらった。以下は坂や段差の多い東京都下の路上でのインプレッション。トゥーナイナーには乗り慣れていないということ、より読者目線に近いレポートがもたらしている。7ブランドからそれぞれ選んだ1台をインプレッション。まずは、スペシャライズドのトゥーナイナーから。  
「大型であるはずなのに、なんでこんなに取り回しがしやすいんだろう！ 裏路地を走るのにもちょうどいい。29インチバイクにありがちなもっさり感がまったくありませんね。これだったら、乗り慣れていなくてもすぐに乗りこなせるはず。オリジナルのクッション性の高いサドルは、フィット感がいい。デザインも統一感があって、いいバイクだな」



現役MTBライダーが  
実車インプレッション!

写真=逢坂 文=年吉 太(SLOGAN) モデル&インプレッション=永田隼也

# 29er

トゥーナイナー  
という  
第三の波到来。

見た目は見慣れたマウンテンバイク(以下MTB)と変わらないのに、なぜかクールでちょっとだけ威圧的。街乗りをどう楽しむかに余念のない自転車好きならば、そんなバイクを見かけたなら、きっとその正体に気づくはずだ。

その名も「29er(トゥーナイナー)」。読んで字のごとく、29インチの大径ホイールを履いた、MTB界の新人王だ。

まだまだ普及したてで、路上を走っているのを見かける機会も多くはないトゥーナイナーだが、そのルーツはオフロード仕様車。決してヤワな街乗り車ではなく、ゴリゴリなトレイル走行にも耐えうる由緒正しいMTBだ。

ホイール同様に大きく設定されたサイズが生むのは、他のMTBにはない、別次元の乗り心地。街をゆっくり走る相棒として、最高の機体だといえる。「29インチホイールは普通よりもサイズが大きいため安心感が絶大で、それに乗り心地も最高なんだ。もし街中に潜む段差や少々のギャップに突っ込んだとしても、その存在すら気付かなければもちろん落車する可能性も少なくなる。私が開発したこの29インチマウンテンバイクは、もちろん世界中で今注目を集めているし、他のバイクよりも様々な仕事をこなしてくれる相棒だよ。通常だとフロントフォークで路面からの衝撃を吸収するが、ホイールが大きいことでフォークなしでも非常にスムーズな走行を可能にする。26インチバイクにもそれにしか出来ない楽しみ方があるが、それを犠牲にする価値がある29erの走行性能の高さを推奨するよ」と語るMTB界のゴッドファーザーにして、トゥーナイナーの生みの親でもあるゲイリー・フィッシャーの言葉が、何よりもその魅力を証明している。



ゲイリー・フィッシャーが29インチホイールMTBを生み出したのは2002年のこと。歴史こそ新しいが、その注目度は非常に高い。



# miniweelo CLUSIN!

ミニベロ人気は衰えを知らない。なぜならその乗り物は、目を三角にするでもなく、気取るでもない普通に街をクルーズするぼくたちに最適だから。初めての本格自転車にイチオシのミニベロのいいところ、本特集で教えます。

文/たかみひろし

今回は今春オススめのスポーツタイプのミニベロを20台ほど紹介しよう。小さなタイヤ（20インチが中心）が特徴のミニベロは、こぎ出しが軽く小回りが利くので、信号が多く連続してストップ＆ゴーを強いられる街乗りやポタリング（自転車散歩）にもピッタリ。たとえばはくが子供時代から通い続けているお気に入りの街、吉祥寺。ミニベロならレトロカフエめぐりや雑貨店探訪も自由自在だ。人や車の多い都会でも、ストレスフリーでスイスイとクルーズできてしまうミニベロは、小さいけど頼もしいバイクなのだ！

今回紹介するスポーツタイプのミニベロでなら、たがみ絶対オススめのコースは、多摩湖自転車道を利用した多摩湖一周コース「多摩湖サイクリングロード」だ。出発点にもよるが西東京市内から多摩湖まではほとんど直線で約20km。木々に囲まれた自転車専用道（休日は歩行者が多いので注意！）を多摩湖までのんびりポタリングし、余力があれば、アップダウンの激しい多摩湖一周コースにチャレンジ（こちらはそこそこの脚力が必要）するのもよいだろう。景色もよく、最高に楽しめるコース（注1）だ。

そんなカワイイ相棒ミニベロを購入する際、最初の選択肢が「折りたたみ」タイプにするか「折りたたまない」タイプにするかだ。折りたたみ自転車は「輪行」（注2）に向いているし、よりコンパクトなので、玄関や室内に持ち込める（インテリアにもなる！）といった（スペースファクター面の）メリットがある。一方折りたたまないタイプのミニベロは、折りたたみ機構がない分強度に優れたシンプルなフレーム構造なので、ロード車に劣らないスポーツ走行を楽しめるというワケだ。ただし、近年の折りたたみ自転車の中には、走行性能抜群のモデルも数多く存在する。今回採り上げた5万円〜10万円クラスのミニベロは、どれもコストパフォーマンスとブランドバリューともに最高クラスのバイクばかりだ。特に凝ったパーツにこだわらない限り、この価格帯のミニベロなら、デザイン、安全性等文句のないレベル。厳選した20台の中からなら、君好みのデザイン（カラー）で、また見た目のインスピレーションで決めてしまってもまったく問題ないと太鼓判を押ししておこう！（注3）

## ミニベロとすごす クルーザーのボク

### RSW COMPACT

Designed with you in mind. Commuter, boat owner, sports enthusiast... whatever your leaning, this new "Shot Gun" COMPACT adds a new dimension to your life. Two clicks and the handle bars are folded down. Break the main member (as you would a shot gun) and the unit folds in two. Time: four and one-half seconds. The new RSW COMPACT offers pleasure and elegance combined with faultless functional performance. Available in Bronze Green.

### RSW-16

Designed as a convenient adjunct to modern living, the new Raleigh RSW-16 provides a perfect form of transport for easy commuting, shopping and moving quickly through traffic. 3-speed Sturmey-Archer Gear with twist-grip control, wide profile tires to cushion bumps, quick-release lever-adjusting saddle and control bar stems to fit any height, wrapover mudguards, fully sprung saddle with thick foam overlay and large capacity detachable carrier bag. The RSW-16 Deluxe incorporates Dynohub built-in generator. Both models available in Bronze Green and Flamenco Red.







旅立ちたくなるミニベロ

細身のクロモリ鋼フレームにレザータッチ巻きドロップハンドル。前後フェンダーに決め手はブルックスサドル。小柄気量スポーツカーのトランクキャリアにトランクをくくる……そんな古風なトリップを連想させるミニベロ。それがRSWスペシャル。前後バッグにインフレーターとドリンクホルダーをプラス、仕上げにGPSかiPhoneが現代風? カラーはブラックとブルーの2色。フレームサイズ500mm、18段変速。タイヤ20×1.25。価格8万9250円。



history

1870年代、香港から英国に帰国した実業家フランク・ボーデンは友人の勧めで健康回復のためサイクリングを繰り返すうちその魅力に目覚め、ノッティンガムのラレー通りにあった自転車工場を買取り1888年に「ラレーサイクルカンパニー」を設立した。

“極限の走行性能”を目指して  
伝統と8.9kg

本誌読者ならラレーが「英国の良心」ともいふべき伝統ある自転車ブランドであることを知っているはずだ。確かな乗り味とクラシカルなスタイリング。しかしRSWレースは違う。これは英×日が生んだ「リアルに走るミニベロ」なのだ。

写真と文 / モノマガ男

「ラレーの自転車が気になる、あるいはすでに持っているというアナタは、きつと自転車はあらゆるライフスタイル全体にトランプの香りを漂わせているはずだ。ナイロンダウンよりはオイルドコットン、スニーカーよりは革靴を選ぶといった具合。でも本当に伝統を活かす優れたメーカーというのは、進取の気性を忘れない。つまり古いけれど新しい。」

「日本でのラレーはどうか? ヤの内藤常美さんに尋ねよう。「伝統あるブランドにおいても、中には安易な製品作りに流れるものがあるかも知れません。つまりロゴをプリントして二丁上がり、と。しかし私たちは、それをラレーですべきでないと考えています。ラレーは競技と実用の両面で鍛えられてきたブランドであり、「コンセプト」と「実用性」がバランスしなければいけない。さてミニベロですが、ラレーでは1965年に「ラレー・スモール・ホイール(RSW)」の名でいち早く小径車の販売を開始しています。現在展開しているミニベロはそのRSWの先進性を継承していると言えます。」

「ここで取り上げていただいたRSWレースは少し事情が異なります。これは私たちが、極限の走行性能を目指したものだからです」

「最近で見るとつけ、凄みを感じさせるマシンである。この雰囲気どこかで……そう。同じ英国のロータスである。古くは「007」の水陸両用車エスプリで知られ、現在でもエリッゼを筆頭に小型スポーツカーを送り出す名門を連想した。レスポンスに優れた駆動系、確かな手応えの操舵系、研ぎ澄まされたスタイル。これらを両者共通する魅力だと直感した。」

ラレー / RSWレース

英国のラレーと日本のアラヤがタッグを組み、フラッグシップミニベロとして作りだした「RSWレース」。極限の走行性能を目指した車体は8.9kgと軽い。クラシカルな印象が強いラレーにおいて「ミニベロの走り」に特化した一台といえる。レッドとグリーンの2色。フレームサイズ490mm、18段変速。タイヤ20×1。価格12万6000円。

編集部からのナインシヨ話……今回撮影用にお借りし計200kmほど走った。段差の多い都市部では空気圧の高い1インチタイヤは身体にシヨックを伝えるがひとたび道幅の広い街道筋に出ればほぼ無感。無感でないのは私だけという洒落にならない状態。薄手軽量サドルはあにはからんや座り心地も良く、偏ってどこかが痛くなることもなかった。ぐいぐい走る「ミニベロ」という表現は間違いではないが、より正しくは「走る気になせられそれに十全に応えてくれるミニベロ」となる。あと停車し休んでいる時、「いい自転車ですね」とる回声をかけられた。ちよつと誇らしかった。

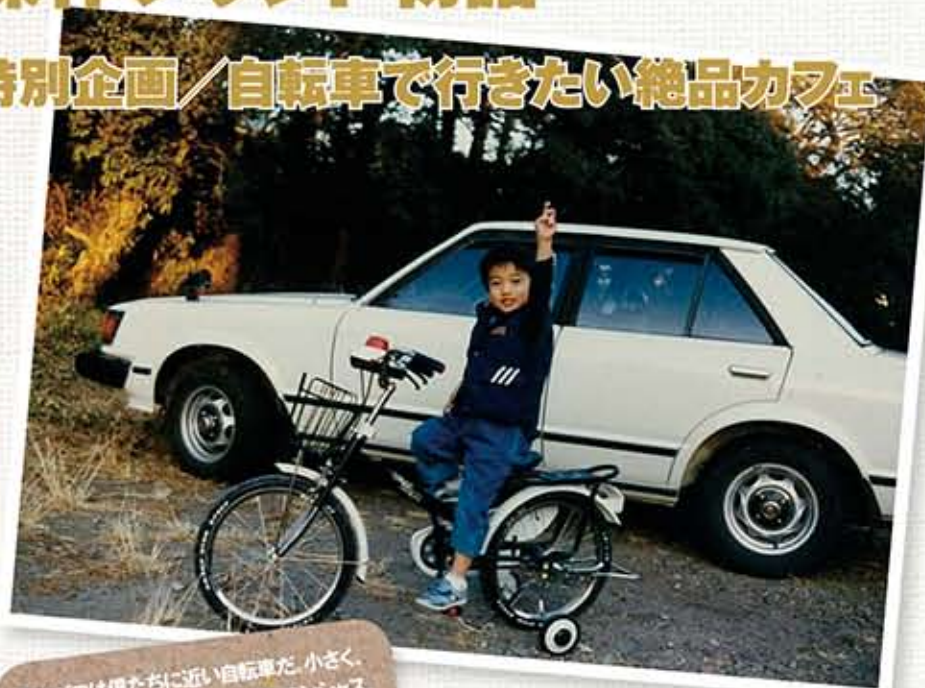


徹底  
特集

### ジテンシヤでちょっと遠くへ

### 傑作ブランド物語

### 特別企画 / 自転車で行きたい絶品カフェ



ミニベロは僕たちに近い自転車だ。小さく、小回りが効いて、その上デザインコンパス、精密な道具を愛でような快感すらある!? ミニベロが発する可能性は秋のツーリングにも最適だ。街乗りもいよいよちょっと遠くまで乗りたくなる。そんなツーリング向けミニベロを特集します。続いて特別企画はジヤイアント徹底探査。ビギナーモデルから競技車まで広範なモデルレンジを有するに至った背景にある秘密はなにが? 徹底取材でこの巨大自転車の秘密を探ります。

#### Editor&Publisher

今井今朝春  
Kosaharu Imai

#### Editorial Supervisor

前田賢紀  
Takanori Maeda

#### Managing Editor

本田賢一朗  
Kenichiro Honda

#### Editor

小川太市  
Taichi Ogawa

#### Designer

小柳英隆 (宣伝會)  
Hidetaka Koyanagi

#### JLG

JLG

#### 中村恵美

Emi Nakamura

#### Photographer

熊谷義久 (WPP)  
Yoshihisa Kumagai

油科康司 (WPP)  
Yasuji Yushina

鶴田智昭 (WPP)  
Tomooki Tsuruda

青木健格 (WPP)  
Takanori Aoki

宮坂政邦 (WPP)  
Masakuni Miyasaka

#### Advertising Director

坪井一雄  
Kazuo Tsuboi

#### Production Director

小川俊介  
Shunsuke Ogawa

#### Circulation Manager

笹川裕史  
Hiroshi Sasagawa

#### Print

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

#### DTP

#### Base

Correspondents, Washington, D.C. Bureau  
(Pictorial Press International)

Norman T.Hatch

Mikako Burks

<http://www.monomagazine.com>

ウェブでも会いましょう!

ワールドフォトプレス ホームページ  
<http://www.monomagazine.com>

モノ・マガジン・ウェブショップ  
<http://www.monoshop.co.jp>

●乱丁・落丁は送料小社負担にてお取り替えます。  
●文中の価格はすべて消費税込みの総額表示です。

●編集の都合上、内容が一部変更される場合も  
ありますのでご了承ください。

WORLD MOOK  
ワールド・ムック868  
平成23年5月20日発行 (通巻868号)  
**monoSTYLE NO.4**  
ジテンシヤ  
編集・発行人 ●今井今朝春  
発行所 ●株式会社ワールドフォトプレス  
〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2  
TEL: 03(5385)5666 [編集部]  
03(5385)1350 [広告営業部]  
03(5385)5701 [販売部]  
FAX: 03(5385)5617 [編集部]  
03(5385)1348 [広告営業部]  
03(5385)5703 [販売部]  
印刷所 ●大日本印刷株式会社